

特集「新しい生活様式を見据えたインターネットと運用技術」の編集にあたって

中村 豊^{1,a)}

2020年に入り新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は世界的に猛威を振るい、この影響で企業活動や教育研究活動にも変化が求められている。感染症拡大を抑制するために急遽勧められたテレワークやオンライン授業などもその変化の1つといえる。このような急速なデジタル・トランスフォーメーション（Digital Transformation : DX）の流れの中で、新たな問題や課題が見えてきた。テレワークのためのリモートアクセスキャパシティの問題や、それらの脆弱性に対する攻撃など、これまで見られなかった攻撃が行われ始めている。また、オンラインだけではなくオンライン・オフラインのハイブリッド形式の授業や会議のあり方が模索され始めている。このように今後の社会活動はこれまでとは異なり、「新しい生活様式」の実践が求められ、その実践にはICTのさらなる活用と強固な情報基盤が必要となる。

本特集号では、COVID-19が世界的に収束することを願いつつ「新しい生活様式」を見据えたインターネットと運用管理技術に焦点を当て、これからの情報通信基盤の構築および活用に向けた最新の研究、開発、実験、運用等に関する論文を掲載している。本特集号は、インターネットを始めとするネットワークシステムに関連する様々な運用技術の発展に寄与することを目指し、インターネットと運用技術（Internet and Operation Technology : IOT）研究会が中心となって企画・編集を行った。本特集には8編の論文が投稿され、20名の委員からなる特集号編集委員会を中心に査読が進められた。編集委員会には、2020年末に「新しい生活様式」を見据えたシステム運用管理を求めて、というテーマで開催された第13回インターネットと運用技術シンポジウム（IOTS2020）のプログラム委員経験者を迎えることにより、テーマの連続性強化とIOTS2020の発表を元にした論文の投稿にもつなげた。また、本特集号の論文募集に合わせて、IOT研究会で「投稿予定論文に対するアドバイス制度」を設け、投稿時の論文品質を向上させる取り組みを実施した。

最後に、本特集号を企画する機会を与えていただくとともに、その実施にご尽力、ご支援いただいた学会関係者各位に感謝するとともに、本特集号に興味を持ち優れた論文をご投稿いただいた著者の方々と、多忙な中、多数の研究成果を綿密に精査し、より良い論文にすべく有益なコメントをご提供いただいたアドバイス委員、査読委員ならびに編集委員の方々に深く感謝する。また、編集作業をサポートいただいた副委員長および学会事務局の皆様にも感謝します。本特集が読者への有益な情報となり、今後の情報通信技術発展の一助となることを期待したい。

「新しい生活様式を見据えたインターネットと運用技術」特集号編集委員会

- 編集委員長
中村 豊（九州工業大学）
- 幹事
池部 実（大分大学）
- 編集委員
阿倍博信（東京電機大学）
今泉貴史（千葉大学）
大谷 誠（佐賀大学）
大森幹之（鳥取大学）
柏崎礼生（国立情報学研究所）
北口善明（東京工業大学）
坂下 秀（アクタスソフトウェア）
佐藤 聡（筑波大学）
敷田幹文（高知工科大学）
土屋英亮（電気通信大学）
萩原威志（新潟大学）
鳩野逸生（神戸大学）
福田 豊（九州工業大学）
松本亮介（さくらインターネット）
三島和宏（東京農工大学）
宮下健輔（京都女子大学）
山井成良（東京農工大学）
吉浦紀晃（埼玉大学）

¹ 九州工業大学
Kyushu Institute of Technology, Kita-kyushu, Fukuoka 804-8550, Japan

^{a)} yutaka-n@isc.kyutech.ac.jp